

ワークショップ 「18-19 世紀京都文芸生成の現場—みやこに吹く新しい風」

日時：3月3日（日）13:25-17:40

会場：京都産業大学 天地館 304 教室（T304） 対面開催 入場：無料

https://www.kyoto-su.ac.jp/facilities/cam_map.htm

朝廷を擁する京都では、18 世紀から 19 世紀にかけて、六如、皆川淇園、小沢蘆庵、賀茂季鷹などをはじめとする地下雅文壇の人々の文芸活動が朝廷・公家の人々に影響を与えるというそれまでにない動きが見られます。妙法院宮真仁法親王のサロンなど、活発な人的交流に基づく、新たな文芸生成の場が現出しました。18-19 世紀京都文壇の形成に寄与した主要な人物を研究する、文学・美術・歴史分野の研究者が、それぞれの最新の知見を共有し、これからの 18-19 世紀京都文壇研究の展望について、自由な意見交換を行いたいと考えます。当日は、漢詩文・和歌和文・俳諧・絵画などの視点から、6 名の研究者が発表し、質疑応答や総合討論を行います。ご参加の方は、下記の URL または QR コードからお申込みください。

【プログラム】

13:25—13:30 開会の辞

13:30—14:00 『竹堂画譜』と『竹堂画譜二篇』に見る京都の文芸ネットワーク

国文学研究資料館 山本嘉孝

14:00—14:30 近世中期上方歌壇と小沢蘆庵—頼春水在坂期書簡を中心に—

名古屋市立大学 加藤弓枝

14:30—15:00 光格天皇の眼差し—京都御所という作品生成の場をめぐる—

京都産業大学 盛田帝子

(休憩)

15:15—15:45 小津久足と京都

山口県立大学 菱岡憲司

15:45—16:15 蝶夢の文芸ネットワークを支えるカー「まことの情」と死者の魂—

豊橋技術科学大学 中森康之

16:15—16:45 新趣向の雲中寿老人図—蕪村、呉春、上田耕夫、耕沖の作品をめぐる—

大阪大学 門脇むつみ

(休憩)

17:00—17:40 総合討論

コメンテーター 京都女子大学 大谷俊太、京都先端科学大学 鍛冶宏介

司会 大阪大学 飯倉 洋一

主催：基盤研究 C（基金）「幕末維新时期における天皇歌壇を中心とする文芸ネットワークの研究」

（研究代表者：盛田帝子）

参加申し込み <https://forms.gle/ZSbb8YJBzzNUiEXY8>

